

I 「義に飢え渴く人は幸いです。その人は満ち足りるから」：6。

私たちは、苦痛からの解放、幸いをまず求めてしまう。しかし、痛みの真の原因と向き合い、治療をすることが大切である。私達キリスト者も気をつけたい。主は、ここで「素晴らしい経験や、幸い、満ち足りる事」に飢え渴きなさいとは言われていない。「義に」飢え渴く者はと言われた。

ここに深い意味があり、大切なポイントがある。幸福、経験、満ち足りる事を第一に求めても、決して真の幸いはない。私たちが、第一に飢え渴き求めるべきものは「義」である。

この大切な順序に心を留めたい。

同じ順序の御言葉 =

「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」 マタイ6：33

II この「義」とは →

- ① 自分の頑張り、自分の実績という義では全くない。
- ② 神の御心にかなう正しさ、義について、自分には力も資格もない事を率直に認め、神に抛り頼む義。

- ③ 私達の数えきれない罪の為に十字架で死なれた主を信じる信仰による義。

自らの罪により神と断絶していた神と和解し、素晴らしい神との幸いな関係に入る。

- ④ 私たちを素晴らしい神から引き離す罪からの解放の願い・神と正しい関係。

私達が、あらゆる面で誤った道に行ってしまったのは、神との正しい関係にないため。

義への願望は、神と正しい関係にいたいという願望、罪から解放されたいという聖なる願望。

私たちと神との間に入り込んでいる罪が、私たちが素晴らしい神を知るのを妨げ、神からのあらゆる良いものが私たちにもたらされて益となることを妨げているから。

義に飢え渴いている人とは、神との深い交わり（人間が本来持っていた神の御前における義の交わり）

に再び立ち返らせていただきたいと切望している人。義に飢え渴くとは、罪の力、罪の欲望からの

解放の願い。自分の心に光が当たる時、自分の中に自分が罪を好み、罪を慕う心があるとわかる。

その内側の罪を告白し、神の義、神の聖さを慕う。

「神のみこころは、あなたがたが聖なることです」 I テサロニケ4：3。

御霊の実を結ぶことの切望。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」 ガラテヤ5：22，23。

神を深く知り続ける事、神と交わり、御父、御子、御聖霊とともに光の中を歩むことの切望。

主ご自身に似る事の切望。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように、主の栄光を反映させながら、

栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の

働きによるのです」 II コリント3：18

III 「飢え渴くとは」 →

私たちの真の必要の自覚。絶対的な必要（自分の弱さ、罪深さ、神なしではすべてが駄目である）の自覚を感じるほど、自分の必要（神を深く知る必要）を自覚する事。

「主を知ることを切に追い求めよう」（ホセア6：3）。

「神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます…生ける神を求めて渴いています」（詩42：1，2）

IV 義に飢え渴く者は「満ち足りる」→ まず「満ち足りる事」を求めるのではなく、

神、義、神との正しい関係、神との交わりを求め第一とする人に

神は、真の幸い、この世にはない真に満ち足りる心を下さる。

「神の国（自分の心を自分の自我ではなく、神ご自身に支配していただく。心の王座から自分が降りて、神に座っていただく）とその義（自分の功績、実績という義ではなく、キリストの十字架による義、神の目に正しい義、神の御心）とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて（真に必要なもの、真の心の満たし）与えられます」マタイ6：33。

「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさ（真の魂の満たし、満ち足りる心）のゆえに、いっさいのことを損とと思っています」ペリピ3：8。

「満ち足りる心を伴う敬虔（神を畏れ敬う信仰）こそ、大きな利益を受ける道です」Iテモテ6：6。

「乏しいからこう言うものではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りる（人との比較で幸いを量るのではなく、今、神から与えられている者で満足し、心から感謝し、共におられる主ご自身を喜ぶ心の満たし）ことを学びました」ペリピ4：11。

「いま持っているもので満足しなさい（神が与えられているものを心から感謝する）。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』」ヘブル13：5。  
聖霊は、主を信じ、神と正しい関係に飢え渴く者に偉大なみわざを始めて下さる。御父と共に、主と共に、内住の聖霊と共に歩むなら絶えず力、愛、聖さを与え続けて下さる。神の武具を身につけて、悪魔に抵抗できるようにされ、罪の汚れを取り除く聖化のみわざは絶え間なくあなたの中で進められて行く。

V 最後に確認したい事は、キリスト者は義に飢え渴いていると同時に、満たされている人である。

満たされれば満たされるほど、ますます神を求める心も育ち、ますます聖なる飢え渴きが与えられる。健康な体が、健全な食欲を持つように。「義に飢え渴く」の原語：飢え渴き続ける者」の意。

「どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました」ペリピ4：11。

同じパウロのことば =

「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全なものとされているのでもありません。

ただ（もっと主を深く知り続ける恵みを）捕らえようとして、追求しているのです」ペリピ3：12。